

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援にこふる			
○保護者評価実施期間	令和7年11月11日 ～ 令和7年12月11日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	令和7年11月11日 ～ 令和7年12月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	送迎がないが、毎回ご家族と対面して利用時の様子を報告し、家庭でできる取り組みもお伝えしている。必要があれば、適宜相談援助の時間を設けている。	家庭で取り組みそうなエピソードも交えて、お話をしている。具体的なエピソードとお子さんの強みを合わせて報告し、月ごとに評価シートもお渡ししている。	スタッフのスキルを向上するために、相談援助の方法やフィードバックの方法をスタッフ間で共有する。
2	フォーマルなセスメントとインフォーマルなアセスメントのどちらも取り入れて、個別学習のプログラムを立案している。	どの職員が対応してもいいように太田ステージを使って、アセスメントを実施している。そのステージに基づいた個別課題を実施するようにしている。また、新版K式発達検査やWISCの検査結果を持参いただき、支援に活かしている。	職員間で検査に関する知識の水準が様々であることから、発達検査の読み取りや所見の内容をより深く理解できるようにする。
3	明るくて広い空間があり、構造化して使用している。	何をする場所かお子さんにわかりやすい空間になるように活動場所を設定している。必要に応じてパーテーションを使用し、さらに構造化している。	どの職員が対応してもいいように、構造化の内容を共通理解する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎をしていない。	送迎がないことによって、仕事の都合がつかない等、利用を断念する家庭がある。	職員が利用しているお子さんやご家族への支援に注力するためであり、送迎がないことは弱みではあるが、その分、ご家族への支援が充実するように継続する方向である。
2	保護者向けの勉強会などを行っていない。	職員の人数に限りがあることや開所して1年経過していないことから、ご家族のニーズを把握しきれていなかったことが要因である。	職員が増員できたため、今後はご家族のニーズを把握し、ニーズに応じた保護者学習会を来年度は行う予定である。
3	地域に開かれていない。	週1日の利用のお子さんが多いことや就園しているお子さんが多いため、園を通じて地域交流をしていると考えられるため	今後ご家族からの希望や要望があれば、適切に対処して、地域交流を検討する。